SUMITOMO

住友建機 リサイクル紀行

Vol.47 荒川産業グループ（福島県）

福島県西部の会津地方は、越後山脈と奥羽山脈に囲まれた内陸地で、歴史上では幕末の白虎隊や新選組、戊辰戦争の地としても知られる。面積542㎢は愛知県を上回り、太平洋側と日本海側を結ぶ磐越道が東西に貫く。広大な敷地面積を有するが人口はおよそ23万人にとどまることも特徴だ。資源リサイクルをはじめ多角的な事業を行う地元貢献型の老舗企業・荒川産業グループ（本社＝福島県喜多方市、荒川健吉社長）を訪れた。

地域の「資源発掘」と「課題解決」創業時からの一貫したテーマに

年商60億円の荒川産業グループが手掛ける分野は、資源リサイクル、モビリティ、エンジニアリング、バイオマス、フードと多岐にわたる。

中核企業で資源リサイクル事業を行う荒川産業が取り扱う品目も、鉄スクラップを中心に、非鉄、古紙、プラスチック、廃タイヤ、故繊維などと幅広い。喜多方、会津町北、会津一ノ堰、郡山の工場は『All MAterial Recycle Company』の頭文字からなる『アマルク』の名称を冠している。先代社長で現・相談役の荒川洋二氏が立ち上げ、ブランド化した。文字通り「地域で発生する全てのマテリアルをリサイクル材として取り扱っていきたい」（荒川社長）という。

荒川産業は、日本が近代国家として成長を遂げる明治26年（1893年）に、荒川重四郎氏が創業。以来130年あまり、『地域資源の発掘』と『地域課題の解決』を一貫したテーマとしながら、地場産業の変遷やリサイクルを取り巻く制度の変化に応じて事業変容を続けてきた。創業当時は、古着や古道具のほか、当時会津地方で盛んだった養蚕産業の繭を扱っていたという。アルミ製錬などの地場製造業が盛んになった昭和の時代は金属類の取り扱いに本格的に進出するなど、時代の変化とともに地元で生まれる資源を発掘している。平成には自動車リサイクルの処理フローや設備を整備した。

近年は、NPO活動、一般消費者を対象とするBtoC事業、行政を対象とするBtoG事業にも注力している。

アマルクのブランドで福島県内14カ所で展開するリサイクルBOXの資源回収サービスは、24時間365日いつでもだれでも利用可能なサービスだ。

平成6年（1994年）から本社3階で展開する『リサイクルミュージアム くるりんこ』は地元の小学生の見学会などにも活用されており、これまでに1万6000人以上が来場。荒川産業には、子どもの頃にミュージアムを見学したスタッフも数人いるという。

行政との連携・協業においては、喫緊の課題として可燃ごみの減量対策を進める会津若松市と連携協定を締結した。荒川産業グループの総合力を生かし、リサイクル可能な一般廃棄物の再資源化を図るもので、今後県内各自治体へも提案を行っていく予定だ。

「ミュージアム くるりんこ」（本社内）

スマートカントリー構想掲げ 新規の資源ビジネスにも着手

創業時から不易流行を体現してきた荒川産業グループは、令和における資源再生ビジネスにも着手している。子会社として設立したR&Rが郡山市に建設を進める新工場では、廃タイヤリサイクル、RPF（製鋼副資材）製造、プラスチックマテリアルリユースの3事業を柱に展開する予定だ。

「グループが次のステップである『リソーシング産業』に移行する最初のステップになる」（荒川社長）という。

循環経済への移行、脱炭素対応、スクラップヤード規制など、令和の事業環境も変化が絶えない。会津地方も国内の多くの地域と同様に、人口減による地場産業の縮小やスクラップ発生量の減少が続いている。これが、地元企業のグループ化、BtoC、BtoG事業に進出した要因にもなっている。

荒川社長はこうした時代の動きやグループの直近の取り組みを自身のメッセージとともに社内向けの月刊ニュース『ARAKAWA LETTER（荒川通信）』にしたためている。レターは300人を超えるグループ社員に向けた会社としての覚悟と決意を表したものでもある。

長期ビジョンにおいては、持続可能な地域社会・洗練された田舎づくりを目指す「スマートカントリー構想」を掲げている。荒川社長は「社員と地域の幸せを両立する企業であり続けたい」と前を向く。

荒川健吉社長

リサイクル関連グループ拠点

～住友建機がある風景～

SH200LC-7EC：アマルク会津一ノ堰で稼働する住友建機は、SH200LC-7EC、SH200LC-7MF、SH200-7の３機。2025年８月に導入したSH200LC-7ECは、主にトレーラーへの荷役作業で活躍している。（会津一ノ堰）

こまめな対応、「安心感」に

荒川産業は、各拠点に導入する荷役マシンの選定において現場スタッフの声や要望を採用条件の優先項目としている。現在、アマルク会津一ノ堰（会津若松市）の主力荷役機は全てが住友建機となっている。

実際にマシンをハンドリングする会津一ノ堰の小澤拓也所長は職歴20年を超える現場作業のエキスパートだ。住友建機のマシンについて「作業を終えた後の疲労感が少ない。操作に違和感が無く、オペレータの負担を考慮した良機だ」として工場への導入を推進している。

SH200LC-7MF（会津一ノ堰）

最も強調するのが、導入後の保守サービスへの評価だ。「営業スタッフやサービススタッフにいつも気に掛けてもらっていることが、住友建機の仕事ぶりからも伝わる。日ごろのこまめな対応が我々の安心感につながっており、現場の作業に集中することができる」と話している。

SH200-7（会津一ノ堰）

担当：田茂 健太郎

住友建機を日頃よりご愛顧頂きありがとうございます。今後も郡山支店が一丸となりユーザー様の期待に応えられるよう努めて参ります。

住友建機販売株式会社　郡山支店
〒963-8061 福島県郡山市富久山町福原字西原31-1
Tel：050-9000-3098　Fax：024-936-4076